

信用金庫の店舗広域化と費用効率性

神戸大学大学院生 中岡 孝剛

本稿では、信用金庫の再編が比較的落ち着き、緩やかな景気回復期である 2002 年から 2007 年までの全国信用金庫のデータを用いて、店舗網の広域化、あるいは店舗網の希薄化が貸出における効率性にどう影響を与えるのかを確率フロンティア関数の同時推定で検証した。我が国において信用金庫を対象とした店舗網の広域化が与える影響を検証した研究は極めて希少であり、その意味で貴重な分析結果であると考えられる。

本稿で得られた主な分析結果をまとめておくと、信用金庫の店舗網の広域化は費用効率性を改善させることが示されており、広域化による信用金庫内でのエージェンシー問題が起きていないことが示される。しかし、一方で営業区域における店舗網の希薄化（あるいは企業と距離の伸遠）は費用効率性を低下させることが示された。これらの結果から、合併によって店舗網の広域化が進んだとしても、地域に稠密的な店舗網を配置することで、貸出における効率性を向上させることができると考えられる。リレーションシップバンキングの観点からも、地域に稠密な店舗網を配置し、（物理的な意味でも、あるいは感情的な意味でも）密接な取引関係を築くことで、地域コミュニティにおける情報を素早く吸収・蓄積し、融資に反映させることで貸出の効率化を図っていると考えられる。